

Title	松本信廣先生略歴
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1967
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.40, No.2/3 (1967. 11) ,p.371(533)- 373(535)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19671100-0375

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

松本信廣先生略歴

明治三〇（一八九七）年一月二日 東京市芝区愛宕町に生まれる。

四三（一九一〇）年 三月 東京市芝区鞆絵小学校卒業。

大正 四（一九一五）年 三月 慶応義塾普通部卒業。

七（一九一八）年七月―八月 慶応義塾大学文学科二年在学、約二ヶ月にわたり、清水保之教諭（商工学校）、橋本

増吉教授引率の三田山岳会朝鮮、満洲、支那旅行に参加。

九（一九二〇）年 三月 大学文学科（史学）を卒業し、四月、慶応義塾普通部教員となる。

一三（一九二四）年 五月 義塾留学生としてフランスに向け出発、ソルボンヌ大学に学ぶ。

昭和 三（一九二八）年 七月 主論文“Le Japonais et langues austroasiatiques” 副論文“Recherches sur

quelques thèmes de la mythologie japonaise” 及び“Docteur ès lettres

の国家学位を受け、九月、帰朝。

九月 慶応義塾大学文学部助教授兼予科教員。

五（一九三〇）年一〇月 大学文学部教授。

八（一九三三）年 四月 東京文理科大学兼任講師（一ケ年）。その後再び三一年四月に東京教育大学に出講。

八一―一〇月 慶応義塾大学望月基金により、仏領インドシナに研究調査旅行。約七〇日にわたり、ハノイの遠東学院、ユエの王宮とその図書、および近傍の遺跡等を調査。

昭和一二(一九三七)年七月―八月

南の会の南洋群島民族学調査団に参加し、約五〇日間、マリアナ、パラオ、ニューギニアの各島の民族学調査を行なう。

一三(一九三八)年五月―九月

慶応義塾派遣の支那大陸學術調査隊の第三班を率いて、四ヶ月にわたり南京、杭州方面の遺跡等を調査。

一四(一九三九)年一月

再び南京に赴き、文化遺物の整理を行なう。

一七(一九四二)年一〇月

慶応義塾大学語学研究所開設とともに第一部長に就任。

一八(一九四三)年一月

同亜細亞研究所開設とともに文化部長。(一九年十二月閉鎖)

十一月

著書「印度支那の民族と文化」により、慶応義塾学事振興資金による表彰を受ける。

二〇年四月―三一年三月

慶応義塾外国語学校長。退任後同校顧問に推挙される。

二一(一九四六)年 四月

東洋大学兼任講師(一ヶ年)。

二六(一九五一)年 四月

慶応義塾大学大学院(文学研究科)開設され、東洋史、民族学を担当。

二七(一九五二)年一月

「千葉県加茂における古代独木舟出土遺跡の研究」により、慶応義塾賞を受賞。

三〇(一九五五)年 四月

東京都立大学大学院兼任講師(二ヶ年)。

日仏の文化交流に尽くした功勞により、フランス政府から *Les palmés académiques* 勲賞を授与される。

三一(一九五六)年 六月

日本歴史学協会委員長。

三二年九月―三三年四月

日本民族学協会東南アジア稲作民族文化綜合調査団々長として、タイ、ラオス、カンボジアの各地に赴き、メコン河流域の諸調査を行なう。

昭和三四年一〇月―三六年九月

慶応義塾大学文学部長、大学院文学研究科委員長。

三七（一九六二）年 七月

大学言語文化研究所の発足とともに、所長兼第一部長。

三八（一九六三）年 一月

日本学術会議第六期会員（第一部全国区）。引きつづいて四一年一月から第七期会員。

四〇（一九六五）年 四月

三田史学会々々長。

四〇年一〇月―四二年九月

慶応義塾大学大学院社会学研究科委員長。

四二（一九六七）年二―八月

政府から香港中文大学に日本研究講座の開設を依頼されて渡港。

以上のほか、慶応義塾においては、慶応義塾協議会員、大学評議会委員、図書館商議員、通信教育部学務委員、斯道文庫委員会委員、創立百年記念事業委員、体育会山岳部長、同重量挙げ部長等を、学外においては、日本民族学協会委員長、理事、評議員をはじめ、東方学会、史学会、史学研究会、日本言語学会、日本人類学会、日仏社会学会等の諸学会の各種役員、東洋文庫、ユネスコ東アジア文化研究センター設置準備委員会、同運営委員会、文部省のアジアアフリカ言語文化研究所設立準備委員会、同運営委員会、学術交流委員会、学術奨励審議会等の委員を歴任。